



【典礼部だより】 5月の典礼暦から～主の昇天（復活節第7主日）～

復活節の福音朗読を振り返ってみると、復活の主日、イエス様の墓が空になっている場面から始まり（ヨハネ20・1-9）、第2主日ではイエス様が閉じこもっていた弟子たちの所に「あなたがたに平和があるように」と現れました（ヨハネ20・19-31）。第3主日はエマオへの道のシーン（ルカ24・13-35）。2人の弟子の「わたしたちの心は燃えていたではないか」という台詞が印象的です。第4主日は、善き羊飼いの話（ヨハネ10・1-10）でした。

この号が発行される第5主日は、葬儀ミサでよく読まれる「わたしは道であり、真理であり、命である」の部分で（ヨハネ14・1-12）、「行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える」というみことばは、わたしたちの希望の礎になっています。第6主日でもイエス様は「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る」とおっしゃっています（ヨハネ14・15-21）。

そして5月17日・復活節第7主日、わたしたちはイエス様のご復活から40日めに天に昇られた（マルコ16・19-20、ルカ24・50-53、使1・4-11）ことを祝う「主の昇天」の祭日を迎えます。

「40日」という語に、見覚えがありませんか。そう、ついこの前の四旬節は、イエス様が

荒野で40日にわたって断食された（マタイ4・2、マルコ1・13、ルカ4・2）ことになったものでした。

「40」という数字は、旧約聖書にもよく登場します。例えばノアの方舟の話で、神様は「40日40夜」雨を降らせ、洪水は「40日間」地上を覆いました（創世記7）。イスラエルの人々がエジプトを脱出した後、荒野を旅したのは「40年間」（出エジプト記16、民数記32、33、申命記9など）。モーセは神様との契約のためシナイ山に「40日40夜」こもりました（出エジプト記24、34、申命記9など）。絶望しエニシダの木の下に座りこんでいた預言者エリアは、御使いから受けた糧に力づけられ、「40日40夜」歩き続けて神の山ホレブに至りました（列王記19）。

聖書の中で「40」という数字は「試練」や「準備」そこからの「新しい始まり」を象徴しています。イエス様のご復活の後40日にわたって現れてくださったのも「新しい始まり」の「準備」だったのではないのでしょうか。

というのは「主の昇天」からほどなく、ご復活から50日め、弟子たちに聖霊が降り、地のはてまで救いの訪れを告げ知らせる教会が新しく始まったからです。わたしたちは「主の昇天」の翌週、聖霊降臨の主日にこれを祝い、復活節を締めくくるのです。

【祝・受洗】洗礼を受けての思い

先の復活徹夜祭で教会の一員となった、
フランシスコ・アッシジ ○○○○さんに、洗礼
を受けての思いを寄稿していただきました。

いつもお世話になっております。

4月4日に洗礼を受けました○○○○です。

洗礼を受け、新たな歩みを始められたこと、
また皆さんからも温かいお言葉をいただけ
たことに心から感謝しています。

洗礼名としていただいた「フランシスコ」
の名にふさわしく、謙虚さを忘れず、周囲の

人々に対して思いやりを持ち、日々を大切に
歩んでいきたいと思えます。また、家族を
大切にし、支え合いながら、愛と平和を大事
にする生き方を実践していきたいと願ってい
ます。

まだ未熟ではありますが、祈りを通して
神様や自分自身と向き合い、一步一步成長し
ていけるよう努めてまいります。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

フランシスコ・アッシジ ○○○○

【トピックス】7月5日・堅信式について

7月4日(土)～5日(日)、カトリック
さいたま教区・マリオ 山野内倫昭司教が
水戸教会を訪れ、7月5日・年間第14主日の
ミサを司式、その中で堅信式を執り行われます。

堅信の秘跡は、洗礼の秘跡・聖体の秘跡と
一緒に組み合わせられて「キリスト教入信の
秘跡」を構成するもので(『カトリック教会のカテ

キズム』1285)、司教様は堅信式において按手と
聖香油の塗油と祈りによって堅信を授けます。

堅信は、受洗者が信仰をはっきりと公言し、

表明した信仰に恥じない生活をする事が
できるよう聖霊によって強められる秘跡です
(「堅信」はラテン語confirmatioの訳ですが、
この単語には「強化」という意味があります)。
洗礼が信者としての「誕生」にあたるなら、
堅信は「元服」「成人」にあたるだけでも言っ
たらいいでしょか。

まだ堅信を受けておられない方、堅信式へ
向けた勉強会がありますので、お早めに
お申し出ください。

典礼部

【トピックス】この9月、教会は新たな司祭を迎えます！

来る9月22日(火・国民の休日)、イエズ
ス・マリアの聖心会、ヒマワン・スラクソノ
(Himawan Sulaksono SS. CC.) 助祭の司祭
叙階式が、マリオ 山野内倫昭司教 司式によ
り水戸教会聖堂で行われる運びとなりました。

水戸教会聖堂での叙階式はかなり久しぶ
りのことです。そして、この叙階式の翌日は
水戸教会創立130周年の記念日でもありま
す。今まで教会が続いてきたこと、これから
も続いていくために新たな司祭を迎えられる
ことに感謝し、盛大に祝いたいと思えます。

また、叙階式には、司教と受階者(叙階さ
れる人)との問答の形で「受階者の約束」が
あります。これは洗礼式での「悪霊の拒否」
(罪のわざを退けますか/退けます…)や
結婚式での「意志の確認」「誓約」(この結婚
を望んでいますか/はい、望んでいます…)と
よく似ています(洗礼も結婚も叙階も秘跡
なのであたりまえかもしれませんが)。

叙階式は、感謝とお祝いの場であるだけで
はなく、授かってきた秘跡の恵みを思い起こ
す意味もあるのではないでしょか。 広報部